

ゴルフ会員権も上昇

ゴルフ会員権はバブル崩壊後に利便性の低いコースが20分の1以下に値下がりするなど資産デフレの影響を最も強く受けた分野の一つとされた。ゴルフ会員権は年会費や名義変更料などのコストがかかるため株などに比べ投資目的の購入は多くない。ただ「値上がり

基調が続けば、投資目的「る可能性がある」(全国連絡会)との見方も出て
で会員権を賣つ人が増え ゴルフ会員権取引業団体 いる。

平均は142万円。市場が冷え込んでいた昨年12月第2週に比べ25%高、約2年ぶりの水準となった。

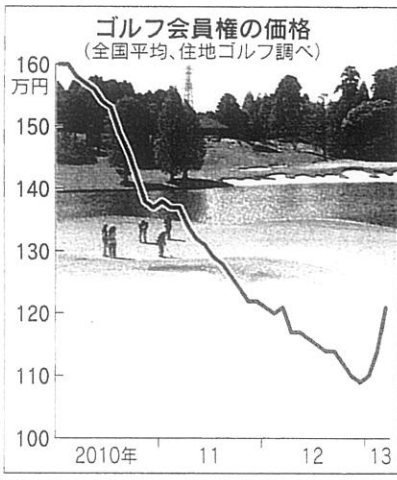
関東がけん引し全国平均は同11%高の121万円になった。関西の平均は同6%高の107万円だった。

値上がりが目立つのは首都圏近郊などの名門コース。高額で知られる小

大浅間ゴルフクラブ(長野県御代田町)は390万円と16%上昇した。主な買い手は中小企業の経営者や法人、株高で余裕資金が生まれた個人など。「退職を控えた人が勤務先で利用していたコースの会員権を個人で買つ例などがある」(仲介大手の桜ゴルフ(東京・中央)という。

名門コースに手が届かなかった人が300万円以下の比較的手ごろなコースを購入する動きも広がっている。

三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所の嶋中雄二所長は「余剰資金はまず株式に流入し、次にゴルフ会員権、絵画や土地へ流入する傾向がある」と分析する。



関東で3割/名門コース2倍も 個人・企業 株高につれ

ゴルフの会員権は最大の市場である関東の価格が全国に波及する傾向がある。

金融緩和と株価上昇の影響が資産デフレの象徴といわれたゴルフ会員権にも波及してきた。

大手仲介会社の住地ゴルフ(東京・中央)によると3月第4週の関東の

ゴルフ会員権の価格が上昇している。全国の指標になる関東地方の平均は最近で最も安かった3カ月前に比べ約3割値上がりした。名門コースの一部には2倍近くになったものもある。昨年11月からの株価上昇で懐が温かくなった個人や先行きの上昇を見越した企業の買い意欲が高まっている。

関東がけん引し全国平均は同11%高の121万円になった。関西の平均は同6%高の107万円だった。

関東以外では奈良国際ゴルフ倶楽部(奈良市)が625万円で34%高。

金井カントリー倶楽部(東京都小平市)は5325万円と3カ月に19%上昇。相模原ゴルフクラブ(相模原市)は1275万円と同90%、東京よみうりカントリークラブ(東京都稲城市)は1500万円と同71%値上がりした。

関東以外では奈良国際ゴルフ倶楽部(奈良市)が625万円で34%高。